

3. ヨゴレの種類により、付着状態は異なり、 Fe_2O_3 、 Fe-OX では凝集状態で付着し、 CB では分散して付着している。各繊維に対するヨゴレのつきやすさは、定量結果から平均して、ポリエステル>ポリプロピレン>レーヨン>モメンとなった。洗浄によるヨゴレのとれやすさは、定量結果から平均して、モメン>レーヨン>ポリプロピレン>ポリエステルとなった。顕微鏡観察の結果から、繊維に付着するヨゴレ粒子の大きさの順位は、モメン>レーヨン>ポリプロピレン>ポリエステルであった。これはヨゴレのつきにくさ、とれやすさの順位と一致し、よごれやすい繊維ほど、微小粒子が多く付着し、粒子が小さいほどヨゴレがとれにくいと言える。

B-10 固形ヨゴレの付着状態の研究 —走査電子顕微鏡による観察—

お茶の水女大家政 矢部 章彦
林 雅子
○野間 愛子

1. 洗浄におよぼす付着粒子の粒度の影響を直接観察の面から走査電子顕微鏡により検討し、理論的考察をうらづける目的で研究を行なった。

2. 木綿、レーヨン、ポリエステル、ポリプロピレンの各種繊維を、 Fe_2O_3 、 Fe-OX 、カーボンブラック(CB)、トリスチリアンなどにより、V型混合機で乾式汚染を行なった。一方これらをSDSにより洗浄したものと付着、脱落状態について走査電子顕微鏡により観察、比較した。